

決算説明会

2006年3月期第1四半期

2005年7月28日

ミネベア株式会社

1. 業績の説明

2. 方針と戦略

2005年7月28日



業績の説明

取締役 常務執行役員 加藤木 洋治

2005年7月28日



業績の説明は全て連結ベースです。

連結業績ハイライト

(百万円)	2005年3月期		2006年3月期	前年同期比
	1Q	4Q	1Q	伸び率
売上高	71,324	72,491	75,690	+6.1%
営業利益	2,802	4,450	3,010	+7.4%
経常利益	1,982	3,371	2,163	+9.1%
税引前利益	1,937	1,942	830	-57.1%
(当期)純利益	208	2,911	980	4.7倍

為替の影響 05/3期1Q → 06/3期1Q
 US\$ 108.71円 → 107.28円
 タイバーツ 2.71円 → 2.70円
 売上高 マイナス0.8億円、営業利益 0.0億円

2005年7月28日

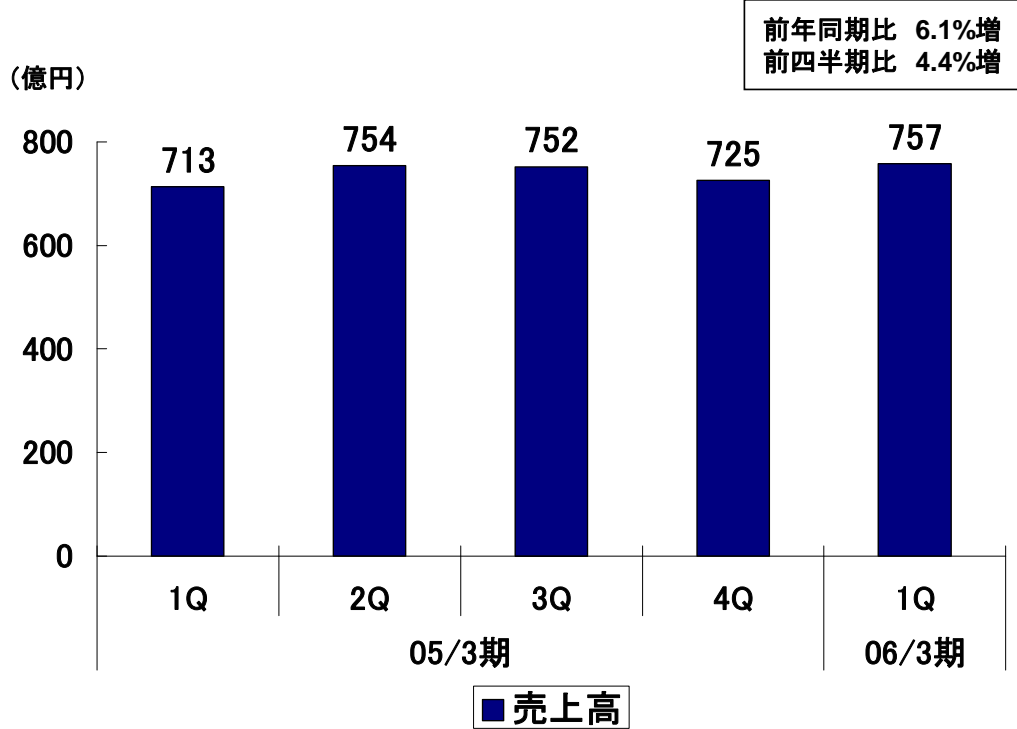
3



第1四半期は主要市場であるPCやHDDが好調に推移し、世界の景気も底堅く推移しました。そのような需要環境のなか、主要製品の販売が伸び販売単価も比較的安定して推移したため、売上高は757億円と計画を上回って増加しました。営業利益は30億であり低水準のままですが、前年度の第1四半期より若干改善しました。純利益は10億円と今期から減損会計を導入したことにより遊休不動産の減損処理に伴う減損損失の8億300万円と、役員退職慰労金の4億5,800万円を特別損失として計上した影響がありましたが、法人税等調整額の戻しにより前年同期より改善しました。

前四半期である前年度の第4四半期との比較では、売上高は増加しましたが、営業利益は第4四半期にミネベア・松下モータでロイヤリティ戻し益があったことと、3つの不採算事業の損益が改善に至っていないことにより、減少しました。

売上高



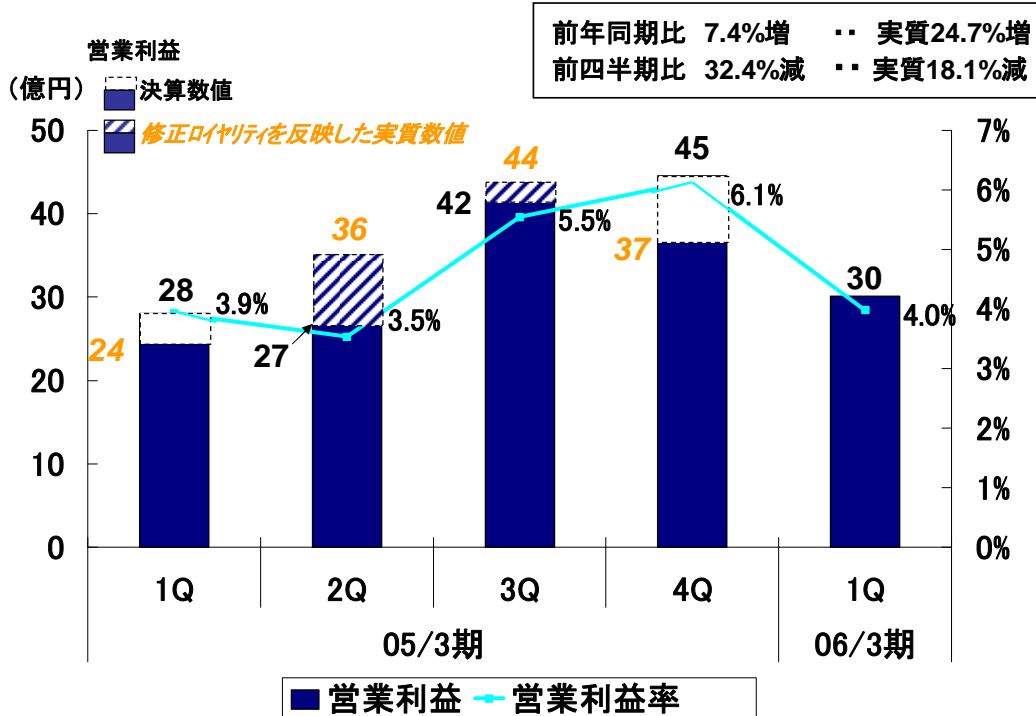
2005年7月28日

4

 Minebea

売上高は、前年度第1四半期に比較して、HDDに使用されるピボットアッセンブリー、航空機向けが主たる用途のロッドエンドスフェリカルベアリング、PC用のキーボード、PC用ファンモーター、携帯電話向けのライティングデバイスなどの販売増加の効果により増加しました。

営業利益



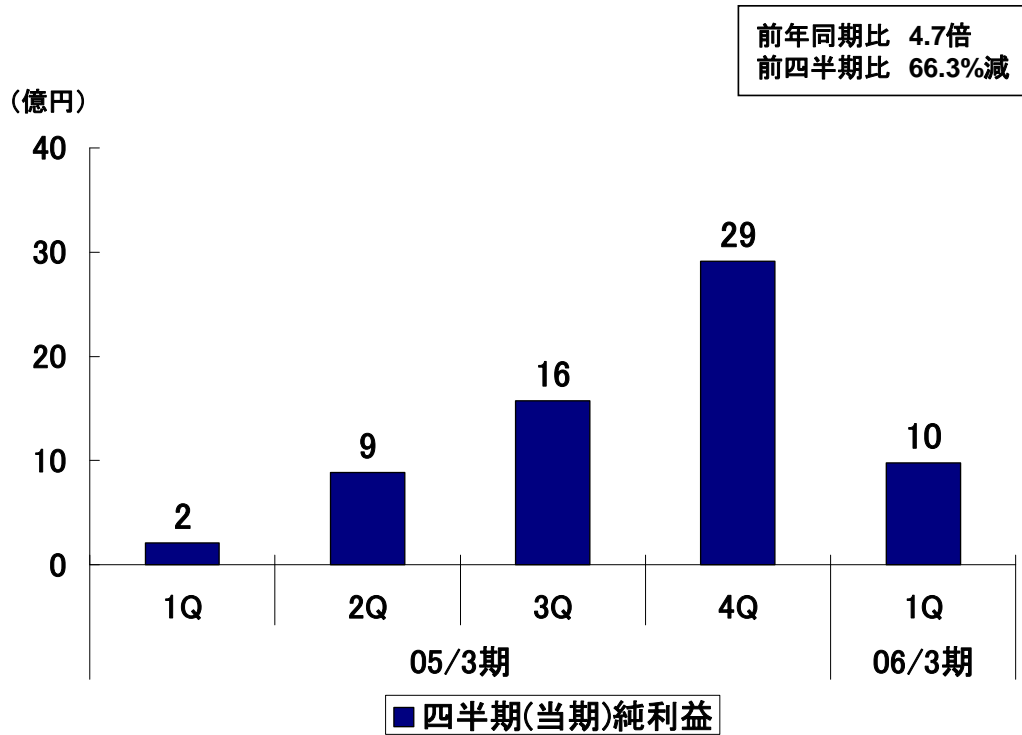
2005年7月28日

5



営業利益は、昨年度の営業利益を修正ロイヤリティを反映した数値に修正しグラフで表示しています。第1四半期の営業利益は期初計画の通りであり、昨年度の第1四半期に比較して、ミネベア・松下モータ合弁事業とキーボード事業の損失が拡大した一方、スピンドルモーター事業、ライティングデバイス事業、ロッドエンドスフェリカルベアリング事業の損益が改善しました。

当期純利益



2005年7月28日

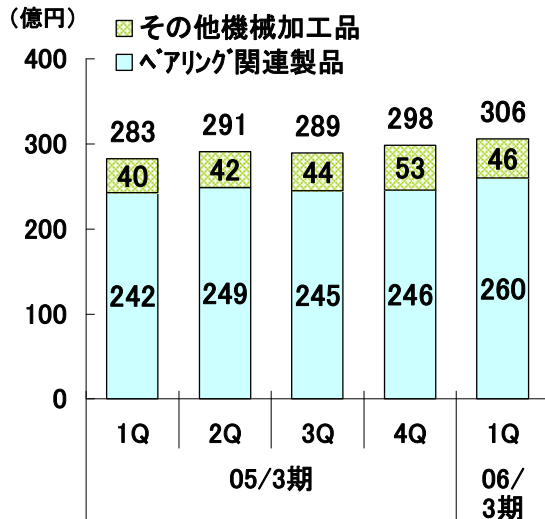
6



純利益は、前年同期に対しては大幅な改善でした。前述したように特別損失を計上した影響がありました。

機械加工品事業売上高

ベアリング関連製品
前年同期比 7.2%増
前四半期比 5.7%増



◆ HDD用ピボットアッシーが大幅増。3.5インチ及び2.5インチが好調。

◆ 航空機向けベアリングが好調。エアバス社A380向け出荷が本格的にスタート。

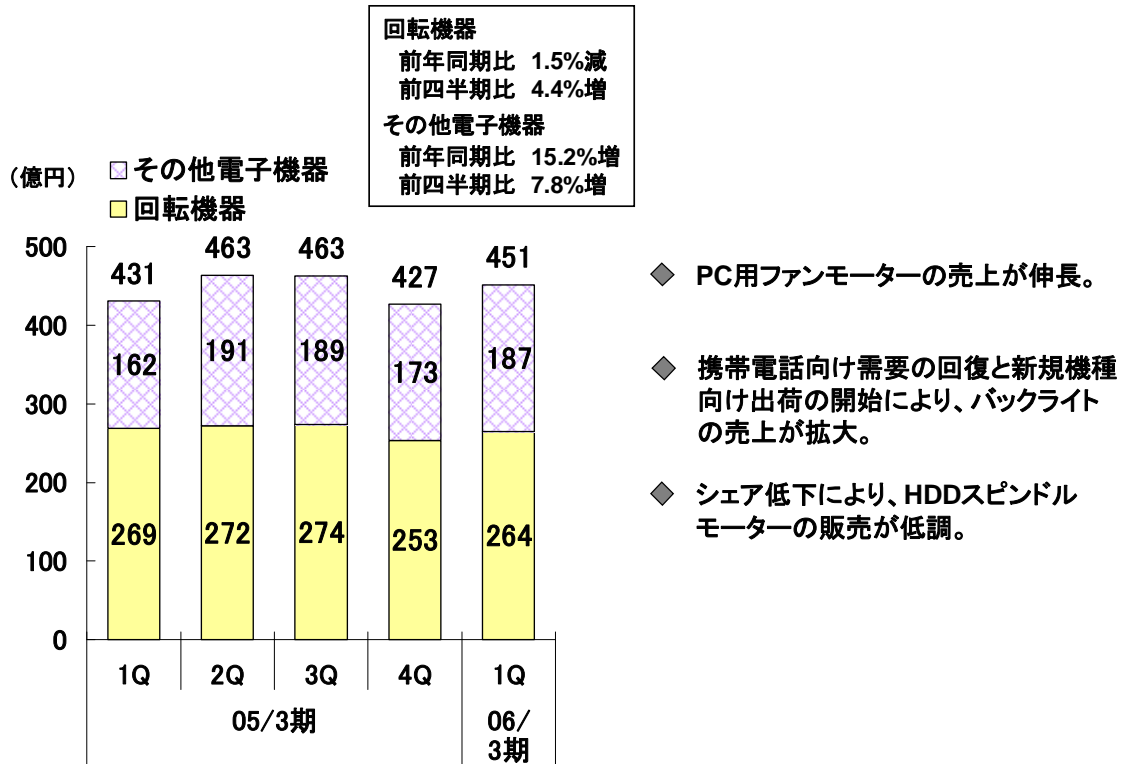
2005年7月28日

7

Minebea

機械加工品事業のうちベアリング関連製品の売上高が260億円と、好調に推移しました。特にピボットアッセンブリーの好調が続いています。第1四半期は2.5インチの需要が回復、3.5インチが増加しました。小型HDD用では若干の調整がありましたが、高水準が続きました。航空機用のロッドエンド&スフェリカルベアリングでも予想を上回る市場の回復がみられます。ボールベアリングは、ピボットアッシーとファンの増産により社内使用を含めた数量は伸びましたが、外販はほぼ横ばいでした。

電子機器事業売上高



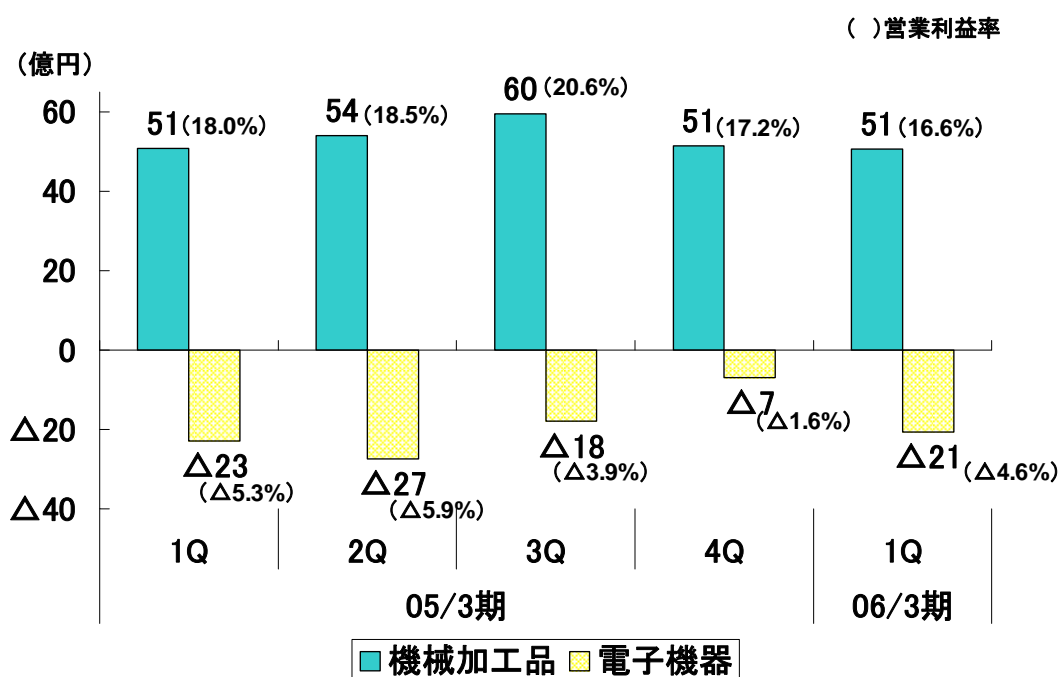
2005年7月28日

8



電子機器事業のうち回転機器の売上高は264億円と、ほぼ変わりませんでした。ファンモーターがPC向け等に大幅に伸びましたが、HDDスピンドルモーターはシェア低下により減少しました。その他電子機器の売上高は187億円と、キーボードとバックライトの売上増加により伸長しました。

営業利益



2005年7月28日

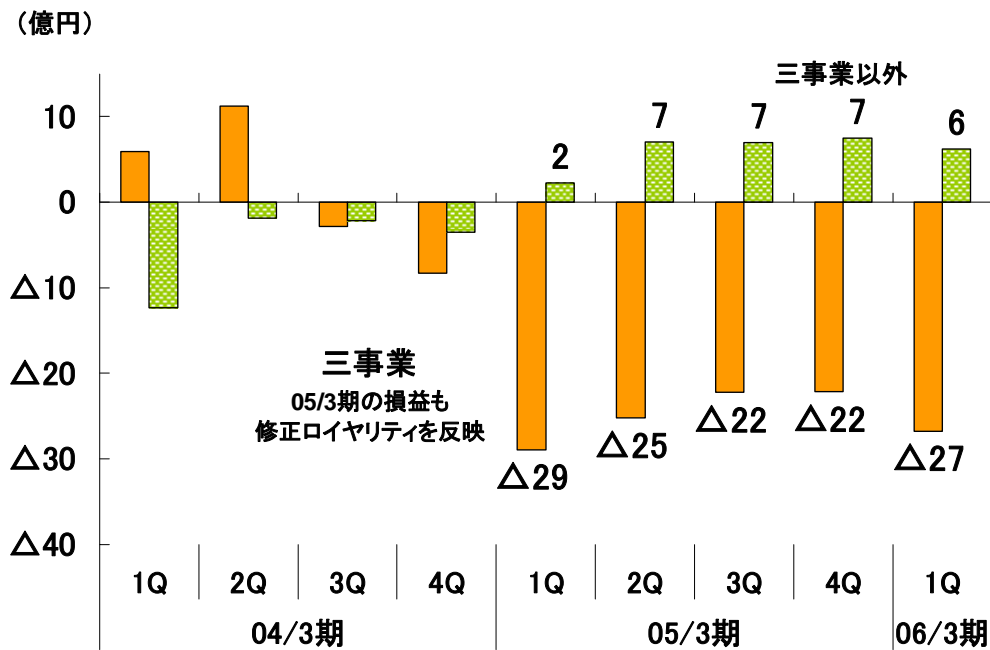
9

Minebea

機械加工品セグメントの営業利益は51億円と前年同期比横ばいでした。

電子機器事業セグメントは21億円の営業赤字でした。

三事業営業損益



2005年7月28日

10



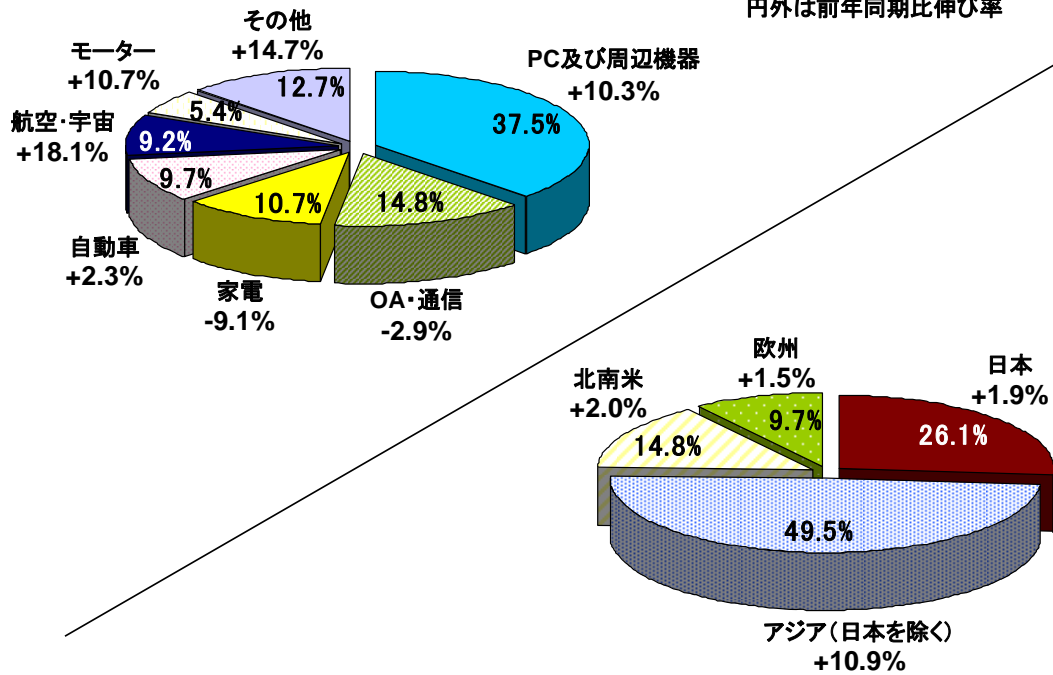
電子機器セグメントのうち、3事業以外の事業は昨年度の第4四半期から若干減益になりました。バックライト事業が拡大しましたが、スピーカーの販売減による利益減少がありました。

3事業の損失は前四半期に比較して拡大しました。スピンドルモーターは数量の落ち込みが要因です。ミネベア・松下モータ合弁事業とキーボード事業は、構造改革や生産移管の途中にあります。

用途別売上高、地域別売上高

第1四半期実績

円内の数字は売上高比率
円外は前年同期比伸び率



2005年7月28日

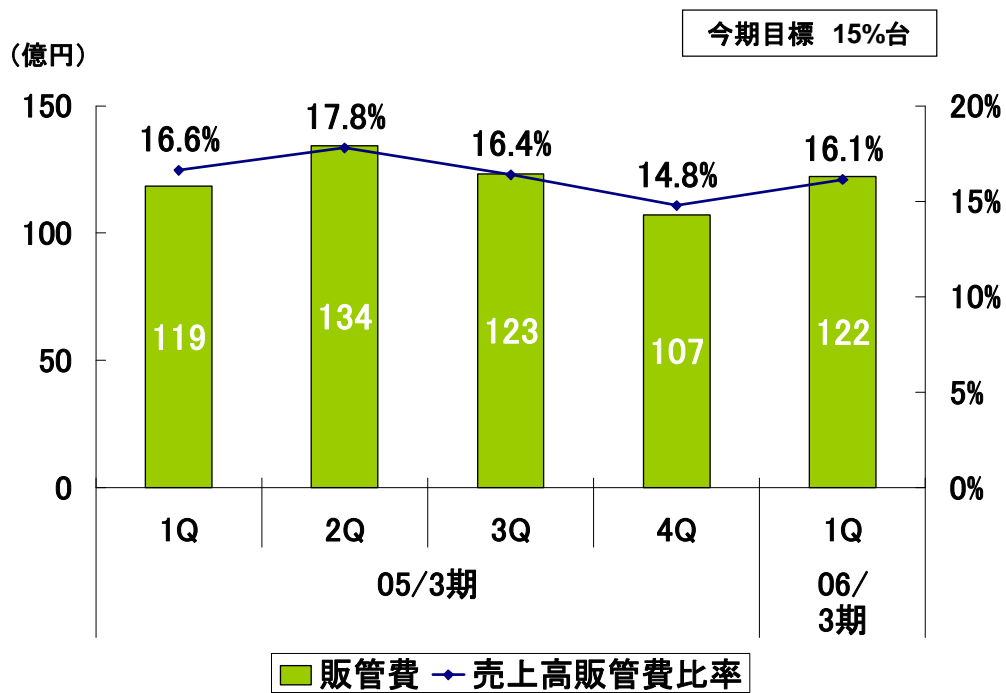
11



用途別では、ファンモーター、キーボード、ピボットアッセンブリーの売上がPCやHDD向けに好調でした。また、ベアリングが航空機用に大幅に伸びました。

地域別では、中華圏の売上高が引き続き伸長しました。

販管費



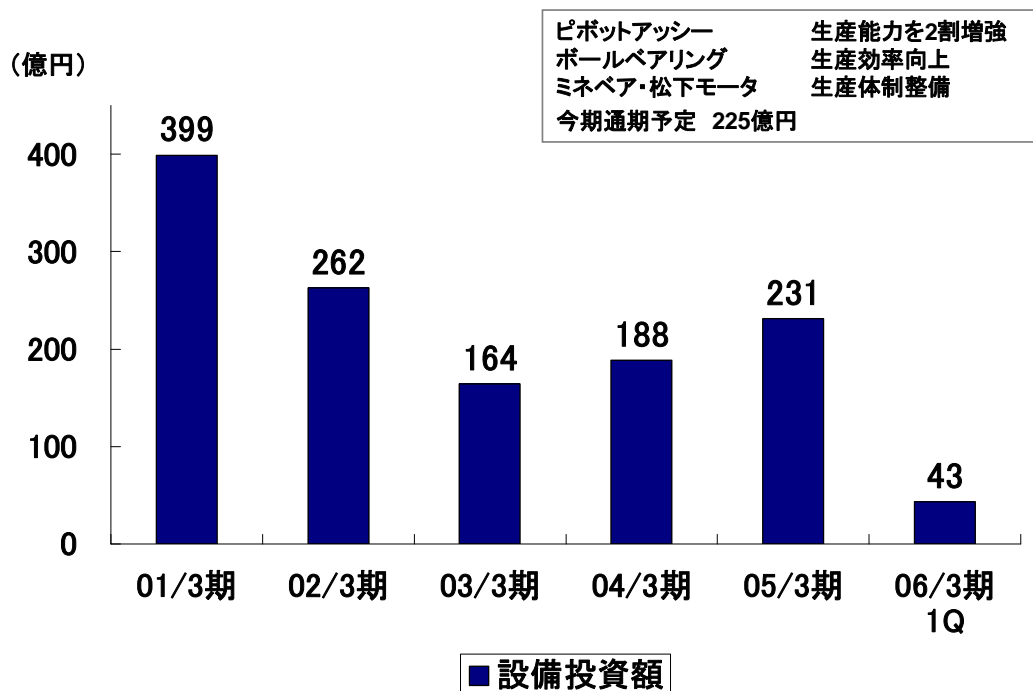
2005年7月28日

12



経費削減に取り組んでいますが、売上増加もあり第1四半期は経費が増加しました。今期は販管費対売上高比率で16%を切ることを目指しています。

設備投資額



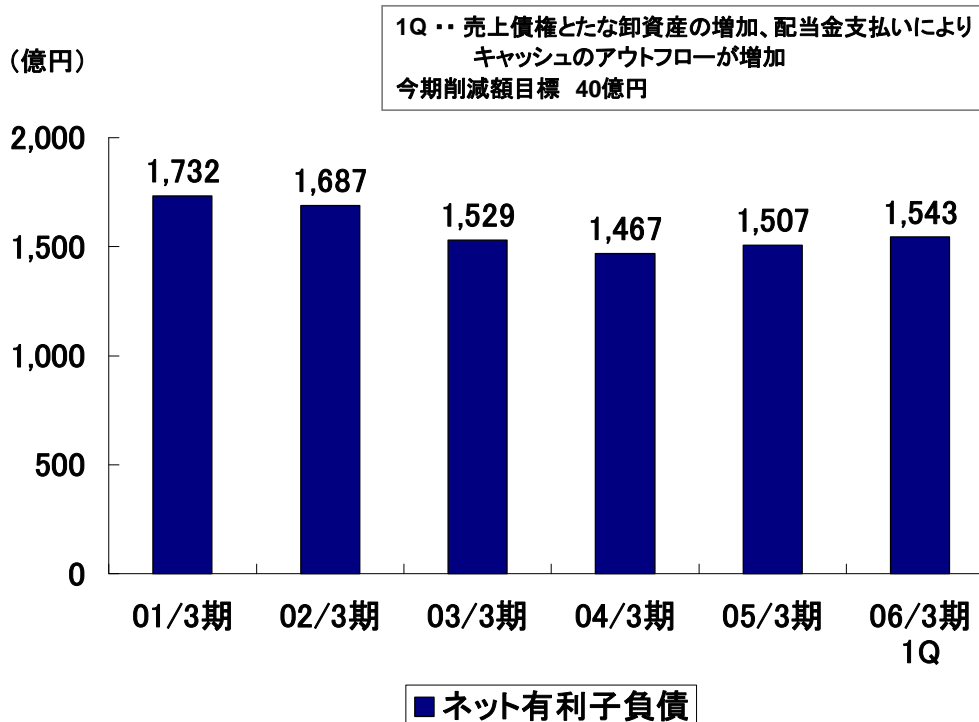
2005年7月28日

13

Minebea

第1四半期の設備投資額は43億円でした。今期は、小型ピボットアッセンブリーの自動組立ラインの増設、ボールベアリングの増産と生産効率向上、ミネベア・松下モータ合併事業の生産移管や部品の内製化と生産効率向上の施策に伴う設備機械の設置をしています。

有利子負債



2005年7月28日

14

Minebea

第1四半期は、配当金支払いなどがあり、キャッシュフローの支出が増加しました。

その結果、有利子負債が2005年3月期末より増加しています。現預金を差し引いたネットベースで、第1四半期末は1,543億円と、前期末より36億円増加しました。今期は40億円の削減を目指しています。

業績見通し

上期業績計画(5月発表)

(百万円)	2006年3月期 上期
売上高	142,000
営業利益	7,500
(当期)純利益	3,000

2005年7月28日

15



上期の業績予想に変更はありません。

営業利益は第2四半期に45億円の利益計上が必要ですが、ピボットアッセンブリー、スピンドルモーター、及びキーボードの収益性の改善により目標達成を目指します。

方針と戦略

代表取締役 社長執行役員 山岸 孝行

2005年7月28日



経営基本方針

1. 構造改革の断行

製造及び営業組織の再編
製造の横断的組織の構築
社内横断的な支援機能の強化

2. 技術開発の強化

基礎技術開発の強化
社内の技術を集約・再編出来る組織の構築

3. 将来像を明確にした経営

市場で優位に展開出来る製造技術面の強化
市場の要求する将来技術を軸にした製品の展開

2005年7月28日

17



経営基本方針は5月の説明のとおりですが、構造改革の断行、技術開発の強化、将来像を明確にした経営を確実に実践していきます。

初めに構造改革に着手しました。構造改革のできる組織ができ、実行段階に入っていきます。また、技術開発陣の再編を行う予定であり、構造改革と合わせて技術開発の強化を行います。将来像を明確にした経営はこれから実施していきます。

経営方針実行の目的

1. 赤字の縮小

課題三事業の収益改善へ全社の資源を集中

2. 黒字の拡大

ベアリング及び関連事業での売上及び利益の拡大

3. 将来利益の確立

(回転機器事業の強化)

高付加価値製品への集中

ディスプレイ周辺部品での事業拡大

当面の経営方針の目的はこれら3項目です。特に、赤字の縮小は、全社を挙げて取り組んでいます。

経営方針実行のための組織の再構築

6月29日及び7月1日に実施

- 新経営体制発足
- 事業部制の導入 14事業部
 - 製作所制を廃止・・・地域からの脱却
 - 製造部門と営業部門を一本化
- 本部制の導入 5本部
 - 社内横断的な支援機能の強化
 - 社内の「匠の技」チーム編成

2005年7月28日

19



前述した方針を実現するために、組織の再構築を実施しました。6月29日に新経営体制が発足、7月1日に事業部制と本部制の導入を実施しました。目的は、製販一体となった事業運営、権限と責任の明確化、風通しの良い組織作りです。本部は事業部を機能的に横断的に支援します。

三事業の収益改善施策(赤字の縮小)

◆ HDDスピンドルモーター

各部品コストのベンチマークを設定
コストダウンの追求

部品 社内の超精密加工技術部隊による展開
組立 人員の削減－作業フローの見直し

◆ キーボード

本部主導による資材のコストダウン
二重コストを終了
高材料費比率モデルの受注戦略の見直し

◆ ミネベア・松下モータ合弁事業

生産体制の統合と設計の統合による効率化
量から質への転換

2005年7月28日

20

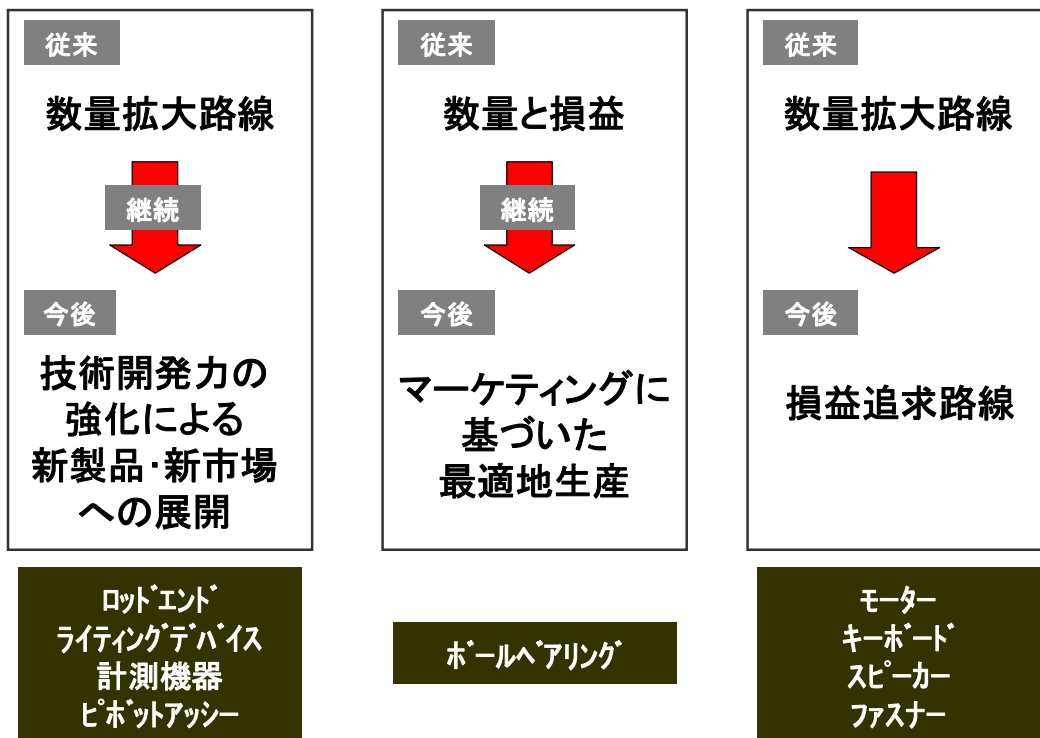


HDDスピンドルモーターでは、現在、機械加工部品の内製化によるコスト削減を進めています。各製造工程において徹底的なコスト削減を行い、赤字を縮小します。7月初めからタイ工場着手しました。

キーボードでは、昨年の原材料価格の高騰の影響もあり原材料費比率が高いモデルが多くなっています。タイ製品の完全移管に加えて資材の調達価格の見直しと受注戦略の見直しによる採算性の改善をはかります。

ミネベア・松下モータ合弁事業では、9月までに生産統合を終了させるべく全力で取り組んでいます。同時に、従来からミネベアが主体となって展開してきたファンとステッピングモーターで設計統合を推進し効率化をはかります。

今後のカテゴリー別事業戦略(黒字の拡大)



2005年7月28日

21

Minebea

当社では、今まで垂直統合生産体制の製造方針の下、数量拡大を重視する傾向がありました。この考え方を見直していきます。大きく方針転換をするのはモーターやキーボードなどです。まずは利益の出る体制の構築を模索します。

ロッドエンド、ライティングデバイス、計測機器などは、技術力と生産対応力により新規分野の取り込みに成功しているときですので、技術開発力の一層の強化によりさらなる事業拡大をはかります。

ボールベアリングでは、今後も数量と損益のバランスを重視し、さらに、製造と営業が合体した新しい事業部のもと工場毎の特性を活かした生産体制の構築とグローバルネットワークを活かした市場開拓や新製品開発に取り組みます。

トピックス

■ ボールベアリング

- 6月に生産及び販売1億8,000万個達成。

■ ロッドエンド

- エアバス社A380向けベアリングの量産開始へ。
- ボーイング社B787向けベアリングの受注活動を推進。
- 航空機業界の好景気を享受。

■ ライティングデバイス

- 新型高輝度LEDバックライトの受注拡大。

2005年7月28日

22



トピックを紹介します。

ボールベアリングは、従来から目標として掲げていました生産販売月1億8,000万個を6月に達成しました。ロッドエンドは、新機種向けの受注や引き合いが順調に進展しています。ライティングデバイスは、新しい高輝度LEDバックライトの引き合いがあり秋にも出荷を開始する見込みです。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2005年7月28日

